

## 「感覚」から「分析データ」に基づいた酪農へ！

## 浜中町農業協同組合酪農技術センター(浜中町)



酪農技術センター全景



町内産の牛乳を原料としたソフトクリーム

## 【組織等の概要】

- 浜中町農業協同組合(以下、「JA浜中町」という。)
- 所在地:北海道厚岸郡浜中町茶内栄5番地
- 代表理事組合長:高岡 透
- 組合員数:258名(令和5年2月現在)
- 飼養乳牛頭数 :23,726頭(令和5年1月1日現在)

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 昭和56年、JA浜中町は「感覚での酪農」から「分析に基づいた酪農」へ転換を図るため、農協では全国初となる土壌・飼料・生乳・生菌分析を実施する酪農技術センターを設立。
- ◆ 平成12年、営農関係の部署すべてを酪農技術センターに集約し、営農指導から生産現場の改善指導まで総括的な管理体制を構築。
- ◆ 平成14年、酪農情報システムを構築。JA浜中町の牛に関わるすべての情報を蓄積し、生乳生産に関わる様々な情報を生産履歴として組合員へ提供可能となった。この取組は全国でもJA浜中町が唯一。
- ◆ 平成28年、GISシステムを構築し、組合員の全ほ場の情報をデータ化して一括管理。
- ◆ 平成29年、酪農情報サービス「ミルダス」の運用を開始。スマートフォン・タブレットを活用し、酪農情報システムの利便性が向上。
- ◆ 現在、徹底した各種分析と情報管理により、安全を食卓に届けると共に、減化学肥料に取り組み、持続可能な飼料供給体制を構築。

## 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- JA単独の分析機関設立は全国初となる取組であったため、関係機関における設立必要性への理解が進まなかった。
- ⇒ 土壌診断結果を反映した土壌改良を行うことで、良い草が育ち、生乳の品質を高め、生産性の向上につながることを実践し、関係機関への理解醸成を図った。具体的には、組合員の全ほ場の土壌分析や牧草の成分分析、生乳の成分・乳質をはじめ牛1頭毎の個体データを把握。データや分析結果を数値化・見える化し、土・草・牛の改善指導等を行うことにより、組合員が改善の必要性を理解・納得した上で、土壌・飼料・飼養管理を工夫し、より良い生乳を生産できる体制になった。

## 【取組の成果】

- 土壌や飼料の分析を含む乳牛管理システムが評価され、浜中町の牛乳が高品質であると認められた結果、海外ブランドのアイスクリームや超プレミアム牛乳の原料に選ばれるなど、浜中ブランドを確立できた。
- 風土を生かした草地型酪農を実践し、化学肥料や配合飼料の使用量を減らすことでコスト削減を図り、経営の安定や自然環境の維持につながっている。

## 【酪農技術センターの分析】



酪農技術センター室内

生乳分析



飼料の定性定量分析

土壌分析

## 【今後の展望】

- 現状の取組を維持・継続していくことが大切。
- GISシステムを再構築し、追肥や耕起時期等も管理していきたい。
- 分析項目のオプションを増やし、一層の飼養管理体制向上につなげたい。